

2022年度 学校法人 三幸学園 東京墨田看護専門学校

自己評価報告書

自己評価報告責任者：事務長 鎌田 克也

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で看護を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「心を磨き、心で寄り添える新しい時代の看護師」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

(1)新カリキュラム運用における教育内容の充実

新カリキュラムの運用初年度において、地域連携や三幸学園姉妹校連携を積極的に行った。母性看護学では、墨田区のスポーツクラブと連携し「マタニティヨガ」や「ピフィラティス」等の内容を取り入れ、また新科目の「ケアリング」や「健康づくりと運動」では、三幸学園姉妹校の講師を招き、「健康・癒し」等の、看護師として必要なスキルを習得させることができた。教育手法として、VR教材・情報伝達ツール(ロイロノート)等のICTを活用する事で授業が活性化し、習熟度を高めることができた。その結果、看護師国家試験は94.4%・就職進学率100%と一定の成果をあげることができた。

(2)人間性を高める教育の実践

「人を尊重し、感性豊かな人間性を育て、専門的スキルを養う」という教育目的として、単に知識や技術を教育するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、社会で役立つ人材を排出する事を目指している。基本スタンスである「あいさつ・礼儀」について入学から卒業まで一貫した指導強化を行い、またクラスマッチなどの行事を行うことで、協調性・主体性を養うことができた。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・新カリキュラム施行により、スクールポリシーを明確にし、全教職員・全学生に周知した

・3年ぶりに対面での保護者・保証人会を実施し、保護者に理念・目的等を発信した

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・コロナウイルスの影響により、事業計画に沿ったカリキュラム運営が難しく、多数の変更が迫られた

② 今後の改善方策

・アフターコロナにむけて、再度事業計画を立て直し、効果的に実行していく

③ 特記事項

・情報伝達ツール(ロイノート)や、VR教材、電子教科書など、情報システムの活用がより一層進んだ

(3)-1 教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・授業評価・実習評価の見直し

② 今後の改善方策

・ルーブリック評価の実施と検証。基準の明確化を図る

③ 特記事項

・新カリキュラム運用にむけて全領域のルーブリック評価が完成した

・「健康づくりと運動」「コミュニケーショントレーニング」等、ディプロマポリシーに沿った新科目を開始した

・2年ぶりに本格的な行事であるクラスマッチを実施。学生の満足度は非常に高かった

(3)-2 実習

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
実習に臨むにあたり、目標の理解を事前に行っているか	4
学生支援の体制整備がなされているか	4
臨地実習指導者と教員の協働体制・連携はとれているか	3
対象者の権利を尊重できるような指導がなされているか	4
学生への計画的な指導を行っているか	4
臨地実習における安全教育・対策を実施しているか	4

① 課題

・臨地から学内実習への変更となり、実践的な技術・知識習得の連携体制が取れない

② 今後の改善方策

・2023年度は年間通して臨地実習を実施予定。実施する事で、実習先との連携を強化する

③ 特記事項

・新カリキュラム施行により、地域・在宅看護実習の臨地実習先(地域包括センター等)の拡大

・母性看護学実習では、マタニティヨガやピフイラティスなどの独自性のある実習内容を組み入れる

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・休学者率の改善

② 今後の改善方策

・学習サポートの強化、保護者やカウンセラーとの連携強化

③ 特記事項

・卒業生の就職進学率100%

・国家試験対策をより強化し、94.4%の合格率

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・保護者との連携体制の確立

② 今後の改善方策

- ・保護者(保証人)への、情報・連携方法の工夫

③ 特記事項

- ・卒業生支援の場として、初めてホームカミングデーを実施した
- ・キャリア教育充実のため、複数の外部講演やイベントを実施した

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・ボランティア活動の積極的な奨励

② 今後の改善方策

・医療機関・福祉施設等への、ボランティア活動を学生に周知し、積極的な参加を推進していく

③ 特記事項

・実習先病院の防災訓練ボランティアに参加。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

■学校運営について

方針・目標が明確に示されており、教職員全体にも浸透している事は評価できる。

スクールポリシーが具体的になり、「技能と心の調和」という教育理念のもと、人間力育成を目指し、「挨拶」や「感謝」が飛び交う明るい学校になっている。また、コロナウイルスにより、学校の活動が限定されてしまったが、何度も訪れる制限に対して、学校としての対応力が上がり、感染に注意しながら「行事」や「委員会」等の活動も行う事ができた。ICTの活用が進化しており、VR教材、ロイロノート等の情報伝達ツール、電子教科書などの活用も進み、教育現場における新たなチャレンジに期待できる。

■教育について

新カリキュラム施行に際して、新しい科目が次々とはじまり、学生の習熟度・満足度とも非常に高い数値となっており、まずは良い滑り出しになっている。国家試験対策については、上級生が下級生に勉強を教える取り組みを始め、学年を越えたコミュニケーションが強化され、多くの学生が遅くまで勉強して頑張っている様子が見受けられる。授業形式としては、対面授業の割合が多くなってきたが、対面とメディア授業のハイブリッド形式で進める事で、より学生の習熟度が上がっている。一方で、一部学内実習となってしまったため、臨地実習で得られる「実践力」が不足してしまった事については残念ではあるが、次年度対応をしてほしい。就職した医療機関より卒業生が「明るい」「主体性がある」という声が沢山出ている事が、何よりも良い人材育成ができているという評価である。

■その他

広報活動においては、看護師希望者が業界として減っている中で、東京墨田看護専門学校の応募者数がかなり増えているため、開校6年目で認知度拡大ができている。

今後は、看護師志願者が増えるように、業界全体に対して看護師の魅力の訴求を継続してほしい。

地域活動は、今まで制限されていたが、徐々に活動ができるようになってきたため、今後に期待される。

全般的には評価 10 項目において、それぞれにおいて工夫がされており、良い運営ができていると思われる